エンジョイ園芸

野菜　シュンギク（雨よけ）

長く楽しめる摘み取り

――鮫島　國親

春に黄色い花が咲き，葉もキクに似ていることから「春菊」と名付けられたようです。独特の香りがあり，カロテンやカルシウム，鉄分を多く含む緑黄色野菜で，なべ料理や天ぷらなどに重宝します。

収穫は茎を順次摘み取る方法と株ごと抜き取る方法とに分けられます。一般に収穫が長期間続けられる摘み取り栽培が多く，特に鮮度が要求されることから，家庭菜園に最適です。今回は雨よけ施設を利用した秋まき（９－１０月まき）栽培を紹介します。

生育適温は１５－２０度，発芽適温は１０－１５度で，冷涼な気候を好みます。なお，採種後２カ月程度は発芽しにくいので，自家採種の場合は前年の種子を使うと良いです。

土壌は弱酸性を好み，連作障害は少ない方です。高温と長日で花芽ができ，温暖地では４月ごろ開花し，５－６月に結実します。秋まき栽培は直まきと移植の両方が可能ですが，摘み取り栽培では移植（育苗）が一般的です。

種まきの１０日前，苗床に１平方㍍当たり苦土石灰１００㌘，堆肥２－３㌔，化学肥料１００㌘（三要素１５％の場合）を目安として施します。条間２５㌢，まき幅１０㌢くらいにまき，発芽後，株間２－３㌢に間引いて，さらに本葉三，四枚のころ１㍍間２０本程度にします。育苗期間中は苗床を寒冷紗や防虫ネットでトンネル状に覆い，乾燥や強雨，害虫による被害を防ぎましょう。育苗期間１カ月，本葉五，六枚で定植します。

本ぽには苗床と同程度の肥料を施し，適宜追肥します。なお，前作終了後，畑全体にかん水し，深層部まで湿らせます（１平方㍍当たり３０㍑）。栽植密度は条間３０㌢，株間２５㌢。厳寒期（５度以下）はハウスによる保温に加え，べたがけ資材で被覆します。

主枝の草丈が２５－３０㌢，葉数２５枚前後になったら根元から４枚残して長さ２０－２５㌢で収穫します。脇芽は分岐部から二節残して，同様に順次収穫します。定植後１カ月で主枝が，その後２０日間くらいの間隔で脇芽が春ごろまで収穫できます。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成１９年１０月１１日（木）／南日本新聞